

# 下野市立細谷小学校

## 1 学校課題

### (1) 研究主題

聴き合い学び合う授業の創造 ～学び合う授業の実践～

### (2) めざす子ども像

- 学ぶ楽しさを知る子ども
- 学び方を知る子ども
- 互いの考えを尊重し合う子ども



## 2 研究計画

月	研 修 内 容
4	・ 学校課題研究についての共通理解
5	・ 学級の児童の実態把握
6	
7	・ 指導案検討
8	
9	・ 指導案検討 ・ 学校課題授業研究会 授業 2年国語
10	
11	・ 指導案検討
12	・ 学校課題授業研究会 授業 5年理科
1	・ 学校課題の成果の確認 ・ 研究の反省
2	
3	・ 次年度の計画

## 3 研究内容

### (1) 主な研究内容

- ① 「学び合い」の共通理解 … 教師の学び合い
  - ・ 参考図書の利用
  - ・ 他校の授業研究会への参加
  - ・ 情報交換
  - ・ 本校の「学び合い」の指針作り
  - ・ 開かれた授業（互いの授業を参観し合う）
  - ・ 研究授業
- ② 学び合いの授業の創造・実践
  - ・ 教材研究（どの単元、どの場面で有効か）
  - ・ 課題の設定・提示の仕方の工夫
  - ・ ポイントを押さえた指示のしかた
  - ・ 教師のかかわり方（話し合いの際の助言など）
- ③ 児童の学び合いに必要な意識・能力の向上
  - ・ 自主的な学習の意識付け（学級活動）
  - ・ 話す・聞く力の向上（国語科を中心に。要旨を考えて話す・聞く）
  - ・ 言語環境（読書・辞書の活用）
  - ・ 調べる力の向上（情報機器・図書館の利用）

## (2) 研究の実際

- ① 第1回授業研究会 2年 国語「どうぶつ園のじゅうい」  
指導者 宇都宮大学教育学部准教授 上原秀一先生  
下野市教育委員会指導主事 田澤孝一先生



説明文を読んだ感想を自分の経験と比べて書く学習である。全員が自信をもって書くことができるようにするため、話し合い活動を取り入れた。2年生にとって、経験を基にして感想を書くことは難しいと思われるが、真剣に課題に取り組む姿が見られた。

研究協議では、小グループに分かれて話し合った。「教師の適切な発問により、児童がよく考え伝え合うことができたか」という視点で話し合った。低学年では、話し言葉による支援だけでなく、視覚的な支援が重要であることなどについて意見が出された。

指導講評では、どんな内容の話し合いが児童にとって分かりやすく有効なのかを考えること、子どもの言葉で話し合いをつないでいくことなどについてご助言をいただいた。

- ② 第2回授業研究会 5年 理科 「もののとけ方」  
指導者 宇都宮大学教育学部准教授 上原秀一先生  
下野市教育委員会指導主事 田澤孝一先生



5年生5名が、食塩水の中の食塩がどうなっているか、それをどういう方法で確かめるかについて自分の考えを出し合った。児童の考えを引き出すために、食塩を水に溶かすとかさが小さくなる実験を示した。また、児童が考えを自由に言える雰囲気を作り、聴き合う時間を多く設定した。食塩水のかさが減る実験を見て、児童は想像力をかき立てられ、意欲をもって考えていた。また、既習事項や友達の発言を自分の考えに生かし、より納得のいくものにしようとしていた。

「学び合い」は決まった形があるものではなく学校の実態にあった研究を進めていくこと、めあてと振り返りをより分かりやすく関連付けることなどについてご指導をいただいた。

## 4 本年度の成果と課題

### (1) 成果

- ・ 「学び合い」について、各担任や教科の担当者が、よりよい方法を考えて真剣に取り組んだ。
- ・ 他校の研究授業を進んで参観し、得た情報を他の教職員にも伝達した。
- ・ 年間指導計画に記載し、次年度につなげることができた。
- ・ 児童は、話し合いや調べ学習などに意欲をもって取り組んだ。自分の言葉で伝えようとする態度が見られた。
- ・ 学び合うためにICTの活用 of 効果を感じることができた。

### (2) 課題

- ・ 児童が自分たちの力で学習していけるような課題の設定
- ・ 教師の発問や、適切な指示の仕方
- ・ 互いの授業を参観できる体制